

授業科目名		対象学科・専攻	年次	期別
家庭科指導法 Teaching Methods of Home Economics		児童教育学科 初等教育学専攻	2年次	後期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	教員免許状取得 必修/選択必修	担当教員	担当形態
講義	2	選択	三時 貴久子	単独

科目	施行規則に定める科目区分又は事項等
教科及び教科の指導法に関する科目	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

○コアカリキュラム：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

全体目標：当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

（1）当該教科の目標及び内容  
一般目標：学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。  
到達目標：1）学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。  
2）個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。  
3）当該教科の学習評価の考え方を理解している。  
4）当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。

（2）当該教科の指導方法と授業設計  
一般目標：基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。  
到達目標：1）子供の認識・思考・学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。  
2）当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し授業設計に活用することができる。  
3）学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。  
4）模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。

<b>【全体目標及び概要】</b>	
小学校学習指導要領家庭における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習内容について他教科との関連や歴史的背景について理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。	
<b>【一般目標及び到達目標】</b>	<b>コア目標対応</b>
（1）学習指導要領に示された家庭の目標や内容を理解する。 1）学習指導要領における家庭の目標及び内容並びに全体構造を理解している。	(1)-1)
2）個別の学習内容について指導上の留意点を説明できる。	(1)-2)
3）家庭の学習内容の理解や実技に関する評価の考え方について説明できる。	(1)-3)
4）他教科との関連や歴史的背景について理解し、教材研究に活用することができる。	(1)-4)
（2）基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場면을想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 1）子供の認識・思考・学力、家庭の状況等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。	(2)-1)
2）情報機器及び教材の効果的な活用方法を理解し、授業設計に活用することができる。	(2)-2)
3）様々な学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。	(2)-3)
4）模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。	(2)-4)

回数	家庭科指導法 授業内容 【三時貴久子】	到達目標の番号	コアカリキュラム対応項目
1	家庭科教育の意義と歴史について理解する。	(1) - 1)、 (1) - 4)	(1)-1) (1)-4)
2	指導要領に示された家庭の目標及び内容構成を理解する。	(1) - 1)	(1)-1)
3	指導計画の作成・内容の取り扱いについて理解する。	(1) - 1)、 (1) - 2)	(1)-1) (1)-2)
4	小学校家庭科における子供の家庭理解及び家庭との連携の重要性について理解する。	(1) - 2)、 (2) - 1)	(1)-2) (2)-1)
5	ICTを活用した「A家族・家庭生活」について実践上の留意点を学ぶ。－乳幼児の育児や高齢者の介護に関する映像を用いた授業の展開を学ぶ－	(1) - 2) (2) - 2)	(1)-2) (2)-2)
6	ICTを活用した「B衣食住の生活」について、実践上の留意点(1)を学ぶ。－包丁、アイロン、ミシン等の用具の安全な使い方を指導するために、ICTを使用し映像資料を作成する方法を学ぶ－	(1) - 2) (2) - 2)	(1)-2) (2)-2)
7	ICTを活用した「B衣食住の生活」について、実践上の留意点(2)を学ぶ。－道具の扱い方をタブレットで撮影しあい、映像を見て技能を高めようとするための指導を学ぶ－	(1) - 2) (2) - 2)	(1)-2) (2)-2)
8	ICTを活用した「C消費生活・環境」について、実践上の留意点を学ぶ。－情報通信機器を用いて生活・環境の問題を調べ、情報を収集・整理し、発表するまでを指導する方法を学ぶ－	(1) - 2) (2) - 2)	(1)-2) (2)-2)
9	指導案作成の手順及び評価の意義や方法を理解する。	(1) - 3)、 (2) - 1)	(1)-3) (2)-1)
10	「A家族・家庭生活」について模擬授業の教材を選び、学習指導案の作成、パソコンを用いて資料の準備を行う。	(2) - 3)、 (2) - 2)	(2)-3) (2)-2)
11	模擬授業の実践と振り返り・評価を行う。	(2) - 4)	(2)-4)
12	「B衣食住の生活」について模擬授業の教材を選び、学習指導案の作成、パソコンを用いて資料の準備を行う。	(2) - 3)、 (2) - 2)	(2)-3) (2)-2)
13	模擬授業を実践し、振り返りと評価を行う。	(2) - 4)	(2)-4)
14	「C消費生活・環境」について模擬授業の教材を選び、学習指導案の作成、パソコンを用いて資料準備を行う。	(2) - 3)、 (2) - 2)	(2)-3) (2)-2)
15	模擬授業の実践を録画した映像をもとに、振り返りと評価を行う。	(2) - 4)	(2)-4)
定期試験	実施する		
成績評価法	授業への取り組み・グループ討議への参加(関心・意欲・態度) 20% 指導案作成・模擬授業の実践(思考力・判断力・表現力) 30% 定期試験(知識・理解) 50%		
テキストおよび参考文献	テキスト：小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省) 『家庭科教材研究』山口短期大学 参考文献：『小学校指導要領(平成29年告示)解説 家庭編(平成29年7月 文部科学省)』 東洋館出版		
メッセージなど	子供が自分の家庭生活を見つめ直し、改善し、よりよい生活者としての歩みができるようにするための家庭科の授業はどうあるべきかを一緒に学びましょう。		

ルーブリック評価を用いた成績評価

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 学習指導要領における家庭の目標及び内容並びに全体構造を理解している。	ほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく理解し、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本は理解し説明できる。	理解できていない。	定期試験	20%
(1)-2) 個別の学習内容について指導上の留意点を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。	説明できていない。		10%
(1)-3) 家庭の学習内容の理解や実技に関する評価の考え方について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。	説明できていない。		5%
(1)-4) 他教科との関連や歴史的背景について理解し、教材研究に活用することができる。	ほぼ完璧に理解し、活用できる。	大きな間違いがなく理解し、活用できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本は理解し活用できる。	理解が不足し、活用できていない。		5%
(2)-1) 子供の認識・思考・学力、家庭の状況等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。	実態把握の重要性を十分理解し、授業設計できている。	実態把握の重要性を理解し、授業設計できる。	実態把握の重要性は理解できているが授業設計に十分生かしていない。	実態把握の重要性を視野に入れた授業設計ができない。	指導案作成	10%
(2)-2) 情報機器及び教材の効果的な活用方法を理解し、授業設計に活用することができる。	ICT等の効果的な活用方法を理解し授業設計に活用できる。	ICT等の活用方法を理解し授業設計に活用できる。	ICT等の活用方法は理解しているが、授業設計に十分活用できていない。	ICT等を活用した授業設計ができない。		10%
(2)-3) 様々な学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。	ほぼ完璧に理解し、授業設計と学習指導案を作成できる。	大きな間違いがなく理解し、授業設計と学習指導案を作成できる。	理解が不十分な部分はあるが、授業設計と学習指導案を作成できる。	作成できていない。		10%
(2)-4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して授業改善の視点を身に付けている。	模擬授業の実践を行い、改善の視点を身に付けている。	模擬授業の実践を行い、授業改善の視点をほぼ身に付けている。	模擬授業の実践はできるが、改善点への意欲は不十分である。	模擬授業の実践も振り返りもできていない。		授業への取り組み・討議への参加